相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会

相双COCOROニュースなごみ

2013年

第６号　H25年３月15日　隔月発行
発行元　相馬広域こころのケアセンターなごみ編集部
ホームページ　http://nagomi.soso-cocoro.jp
Facebookページ　http://on.fb.me/SQ56Ju

平成24年度　ありがとうございました！

（写真　昨年12月、相馬事務所にてスタッフ全員で撮影）

おかげ様で、平成24年度も無事に終わろうとしています。
サロン活動やアウトリーチ活動をはじめ、シンポジウムや検診等、初めてのことで大変なこともありましたが、大きな事故もなく活動することができました。
これも、皆様のご支援のご指導のおかげだとスタッフ一同感謝しております。

当法人が発足してから１年が経ち、東日本大震災からは２年が経ちました。
相双地区の復興はまだまだこれからですが、私達の活動が地域とそこで暮らす方々の力になれるよう、関係機関と連携を取りながら来年度も頑張っていきたいと思います。

これからも、皆様の温かいご支援をよろしくお願い致します。

2013.3. スタッフ一同

ご支援ありがとうございます

（寄付をいただいた方々　ボランティア除く）

- 相馬市　様
- 相馬地方広域市町村圏組合　様
- 世界の医療団　様
- CWAJ(College Women’s Association of Japan)　様
- 公益財団法人　ヤマト福祉財団　様
- 公益財団法人　日本財団　様
- 国際ロータリークラブ　NJ州Englewood club　様
- 国際ロータリークラブ　NJ州7490地区　様
- 京都西北ロータリークラブ　様
- 日本福島県郡山西ロータリークラブ　様
- Japan Society　様
- 米国日本人医師会　様
- 新日本製薬　様
- 日本デイケア学会　様
- 千葉県精神保健福祉士(PSW)協会　様
- SST普及協会　様
- 社団法人　日本精神神経学会　様
- 医療法人卯の会　新垣病院　精神科デイケア　様
- NPO法人　ぱれっと　のじぎく工房　様
- 志自岐　康子　様
- 細田　憲一　様
- 角田　智哉　様
- 藤井　真春　様
- 中西　和紀　様

CWAJ様から寄贈されたハイエース

世界の医療団様から寄贈されたノア

ロータリークラブ様と贈呈式

千葉県PSW協会の御一行様が見学

いただいた寄付・物品は、相双地区の復興のために使わせていただきます。
どうもありがとうございます！

12 月 22 日に、メンタルクリニックなごみ院長の新垣元先生が、12 月末をもちまして退任致しました。

新垣先生には、つくる会及びクリニック設立当初から、相双地区の精神科医療の復興のために多大なるお力添えを賜り、スタッフ一同感謝しております。

今後とも、相双地区の医療保健福祉の復興のために、ご支援・ご指導のほど賜りたいと思います。

どうもありがとうございました。

(写真　丹羽先生から新垣先生へ
福島県の郷土玩具　赤べこが
送られました)

新垣　元　先生
お疲れ様でした！

平成 25 年度　相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会　会員大募集！

本会の趣旨に賛同し入会していただく正会員・賛助会員を募集致します。

1．正 会 員　　年会費　10,000 円
2．賛助会員　年会費　　3,000 円

申し込み方法
① 正会員または賛助会員・氏名・住所・所属先・職業・電話番号・メールアドレスを明記の上、下記住所に郵送または FAX でお申込み下さい。

お振込み先　東邦銀行　相馬支店　普通預金
口座番号：1044879
口座名義：特定非営利活動法人
相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会
理事長　丹羽眞一

郵便振込の場合
口座番号：02260-0-126825
口座名義：特非　相双に新しい精神科医療保健福祉をつくる会
(東邦銀行口座と名義が異なりますので、ご注意下さい)

② 以下のホームページアドレスから申し込むこともできます。
http://soso-cocoro.jp/

※会員になってくださった方には、定期的に会報や現地の情報を送らせていただきます。是非ご検討下さい。

お問い合わせ

〒976-0016
福島県相馬市沖ノ内 1 丁目 2-8
電話　0244-26-9753
FAX　0244-26-9739
担当　佐藤里美・佐藤菜摘
アドレス　nagomi@soso-cocoro.jp

メンタルクリニックなごみ、開院から一年　今思うこと

メンタルクリニックなごみ　副院長　須藤　康宏

NPO 法人 相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会が本格的に始動して、1 年余りが経過しました。この間、当院としては相馬広域こころのケアセンターなごみと連携を図りながら外来診療を継続してきました。ここ相馬の地で精神科クリニックを開院したことの意義は大きく、地元におけるニーズも高いと感じています。

これまで、約 650 名の方が受診しました。震災前からの慢性の精神疾患の方が多いですが、気分障害圏に関しては震災を契機とした発症が半数を占めています。震災から 2 年、原発事故がいまだ収束しない福島では、先の見えない現実を受け止めざるを得ない状況になってきます。今後ますます精神科医療や保健の必要性が高まることが予想されます。地域の受け皿である福祉事業所の需要もより高まるでしょう。

私たちにできることは、目の前にいる当事者の生活に寄り添うこと、そして個人、集団、地域のニーズは何かを常にモニターしながら、ともに歩んでいくことです。関係各位には、今後とも継続的な支援を続けていただけることを切に願っています。

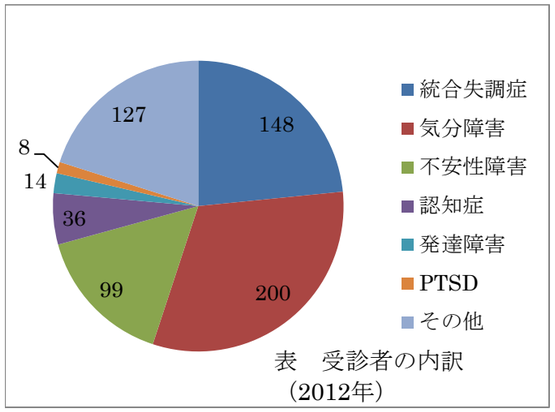

表　受診者の内訳
(2012年)

写真　クリニック＆ケアセンター外観

新人・菜摘のつぶやき

島根県出雲市は、20 年以上前から「出雲の精神保健と精神障害者の福祉を支援する会(以下、支援する会)」という関係者任意の会を立ち上げ、行政と医療・福祉が一丸となってネットワークを築いている地域です。

そんな出雲市に、1 月 21 日から 26 日まで研修に行ってきました。社会福祉法人ふあっとをはじめ、出雲市役所や海星病院の見学、アウトリーチ訪問同行、支援する会の定例会出席など、様々な研修があった充実した 5 日間でした。

出雲市に行ってみて思ったことは、全てのものが「開けている」なということです。人々も、生活を取り巻く社会資源も、「わからない」ことがないのです。それは出雲の土地柄なのか、人柄なのか、はたまた 20 年という年月の賜物なのでしょうか。5 日間という短い期間の中で、そんなことを考えながら過ごしていました。

震災から 2 年が経ちました。これから、「相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」「相馬広域こころのケアセンターなごみ」「メンタルクリニックなごみ」も、出雲市のように地域の中で「開けた」存在になっていけばいいなと思います。

編集後記

早いもので、相馬広域こころのケアセンターなごみが開所し一年が経ちました。皆様の応援があって、今まで活動を継続することができたと実感しております。

被災地では、震災後二年を迎え、被災者の復興のスピードに差が生まれるなど様々な問題が複雑化し、ニーズを捉えることが難しくなっております。

被災地の支援はこれからが本番です。なごみは、これまで以上に気を引き締め前に進んでいきたいと思いますので、引き続き皆様のお力添えをお願いいたします。

編集員　米倉